

# 1. 五色沼探勝路モニタリング報告

## 【目的】

五色沼探勝路における人為的および非人道的変化（自然変化）を定期的に観察し、当該探勝路の利用および保全整備に資する。

## 【概要】

### （1）実施期日

- 第1回 平成23年 5月26日
- 第2回 平成23年 6月24日
- 第3回 平成23年 8月 4日
- 第4回 平成23年 8月30日
- 第5回 平成23年10月 4日
- 第6回 平成23年10月28日
- 第7回 平成23年12月 9日
- 第8回 平成24年 2月22日

### （2）調査者

- ・平野 恭弘（裏磐梯エコガイドの会）
- ・伊藤 延廣、酒井 美代子（裏磐梯エコツーリズム協会）

## 【結果】

### （1）通景線確保について

- ・青沼：通景線は確保されている。左側のクワノキを除去すると、さらに視界を広げることができる。
- ・るり沼：一応通景線は確保されているが、左側の通景線が少し狭くなっている。
- ・弁天沼：デッキ上からの通景線となるため、大きな問題はない。
- ・赤沼：手前の木の枝葉が伸び、通景線が確保されていない。また名称を記す看板等が設置している場所からの通景線も確保されていない。
- ・毘沙門沼：右側（磐梯山頂を望む）、左側（白布山？側）ともに通景線は確保されている。

(2) 外来植物について

- ・ オオハンゴンソウ：毘沙門沼付近は、一斉駆除により減少しているが、まだ下葉が残っている部分がある。また、柳沼から弁天沼にかけての路傍にも残っている。
- ・ キショウブ：柳沼の北岸および北西岸に、人為的に植栽されたと思われる形で生育している。また、同じエリアにミクリ、ヒオウギアヤメなども混生している。
- ・ マルバハッカ：上記キショウブと同じエリアおよび毘沙門沼畔に生育している。

(3) 希少植物について

- ・ ミクリ：柳沼北岸および北西岸にキショウブ、マルバハッカと共に生育している。
- ・ ツバメオモト：前年と同じエリアに十数株生育しているのを確認したが、夏（8/4）以降は確認できていない。
- ・ オオアカバナ：夏の終わり（8/30）に二十数株がヨシと混生しているのを確認した。
- ・ トキソウ：初夏の頃（6/24）に、ヨシの間に一株だけ咲いているのを確認した。
- ・ ヒロハノツリバナ：毘沙門沼畔で確認した。（これは木本なので場所を明示した）

(4) 木道など歩道整備箇所について

- ・ 踏み込み1：当初、柳沼の北西岸、探勝路入り口ゲート脇から沼畔に向かう踏み込み跡を確認したが、その後周辺の草が茂り視認し難くなった。
- ・ 踏み込み2：竜沼・深泥沼間で、下の流れに向かう踏み込み跡を確認したが、その後周辺の草が茂り視認し難くなった。
- ・ 木道周辺のぬかるみ1：弁天沼・竜沼間の流れに沿ったベンチの近く（北側）、木道の北端部がぬかっている。これは前年のモニタリングの際にも確認し、整備（木道の延長等）の必要性を指摘している。
- ・ 木道周辺のぬかるみ2：弁天沼、展望デッキ前の木道の北端部がぬかっている。ここは小さな流れになっている。

(5) その他について

- ・ アカマツの立ち枯れ：弁天沼南東岸に数本の立ち枯れがある。
- ・ 危険なベンチ：深泥沼畔に設置されたベンチ（コンクリート製？）が傾いている。年々傾きが大きくなっている。

【考察】

(1) 通景線の確保について

- ・ 対象とした5つの沼は、いずれも通景線はある程度確保されているが、一部ヨシの押し倒しが不十分などところがある。

- ・ 今後もヨシの押し倒し作業を続けるのであれば、水生植物を傷めぬように、さらには綺麗な通景線が確保できるように、丁寧な作業が望まれる。
  - ・ 各沼の陸域の植物（木々）が通景線を遮っている部分は、少し手を入れて明るい通景線を確保しても良いのではないか。
  - ・ 弁天沼は、展望デッキがあるので、ヨシ丈が3m近くなっても一応通景線は確保されているが、今後もこのままで良いのか検討が必要である。
- (2) 外来植物について
- ・ オオハンゴンソウは、定期的な駆除の体制ができていますので、それをさらに強化継続すればよいが、キショウブ、マルバハッカは、植栽されたものが増えているとみられるので、勝手に駆除してよいものかどうか検討を要する。
- (3) 希少植物について
- ・ ミクリは、あまり目立った存在でもなく盗掘にあう可能性は低いので、このままモニタリングを続けていけばよいのではないか。
  - ・ ツバメオモトは、探勝路から少し入ったところに生育しているので、所在さえ知らなければ盗掘にあう恐れは低いので、このままモニタリングを続けていけばよいのではないか。
  - ・ トキソウも、よほどの好事家もしくは所在を知った者が現れなければ盗掘にあう恐れは低いので、このままモニタリングを続けていけばよいのではないか。
- (4) 木道などの歩道整備箇所について
- ・ 探勝路中に2箇所あった踏み込み跡は、緑が深くなれば目立たなくなるので、特に対策を要することはないと思われる。
  - ・ 木道の端部にできるぬかるみは、木道の延長（少し浮かせて）が必要である。
- (5) その他について
- ・ 弁天沼畔のアカマツの立ち枯れは、すぐ近くにベンチが設置されているので、危険な感じがする。完全に枯れているので、早めに処分しても良いのではないかと思われる。
  - ・ 深泥沼畔の傾いたベンチは、いつ座席部分が落ちるのか全体が倒れるのかわからないが、早急に撤去することが望ましい。